

日本生理学会 (第2回)男女共同参画推進委員会(DEI)通信

今回の話題：

第103回日本生理学会大会 男女共同参画推進委員会企画ランチョンシンポジウム
～就職氷河期世代のキャリア形成～

アンケート結果

<開催概要> 開催日時：3月10日（火）12:10 - 13:00
参加人数：100名以上（準備したお弁当を上回るご参加）



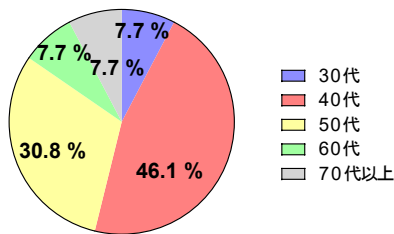
<講演内容>

1. 若手・氷河期世代研究者の待遇改善が研究力強化につながる
(東京慈恵会医科大学 志牟田美佐 先生)
2. 育児をしながらのキャリア形成について思うこと
(岐阜大学 堀井有希 先生)
3. ポジティブ心理学の視点で、より良い研究キャリアは築けるか
(岡山理科大学 千葉秀一 先生)

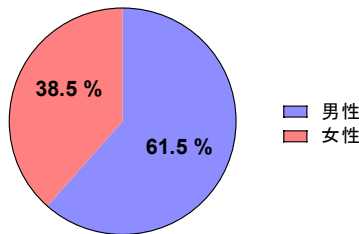
アンケート回答期間：2026年3月10日～3月14日
回答者数：13名（うち13名が生理学会会員）

1. 回答者の基本属性

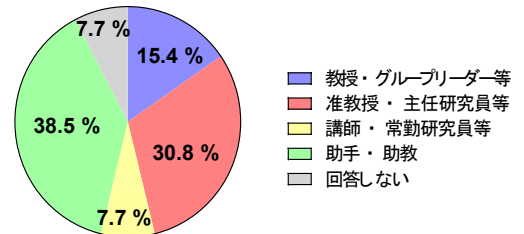
【年齢】



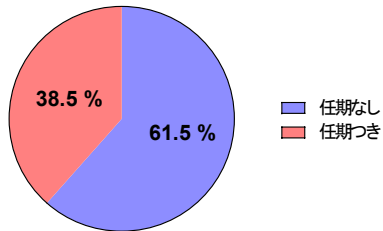
【性別】



【職位】



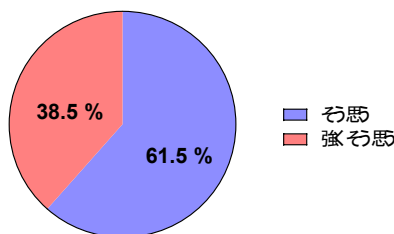
【任期付きの有無】



※ 各職位はいずれも、特任・嘱託を含む

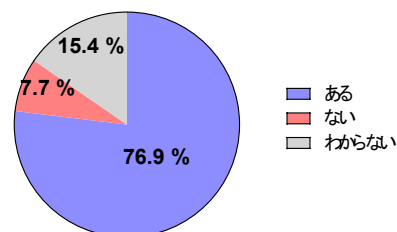
- ・ 回答者の年齢は40代と50代が多かった。
- ・ 職位は助手・助教が多かった。
- ・ 男性の回答者が多かった。

2. 3つのご講演を聴いて、「就職氷河期世代のキャリア形成」について問題意識や関心は深まりましたか？



・ 回答者全員が「問題意識や関心を持った」と回答。

3. 今回の講演内容で、ご自身のキャリアや現在の状況と重なる部分がありましたか？



- ・ ライフイベントとの両立が大変な点 (3件)
- ・ 任期つき職の不安定さやそれに伴う研究への影響 (3件)

4. 「就職氷河期世代のキャリア形成」に関する問題やその解決策について

<コメントのまとめ>

- 雇用環境の安定化と処遇改善を求める声（3件）
 - 任期付き雇用の常態化が問題で、雇用の安定や選択肢の増加が必要（2件）
 - 賃金向上による精神的余裕の確保（1件）
- 組織的な支援体制と柔軟な働き方の推進についての声（2件）
 - 補助員や事務スタッフの配置といった組織的サポートの整備（1件）
 - ライフイベントに応じた休暇や在宅勤務への相互理解（1件）
- 社会・組織システムの構造的分析と理解についての声（2件）
 - 政治経済へ関心を持つ（1件）
 - 現在の社会システムが抱える課題の背景を分析することが有益（1件）

5. 3名の講演者のご講演に対して質問やご意見

<コメントのまとめ>

- 研究者の社会保障の不備を改善するよう国に働きかけるとともに、ポジティブ心理学的な観点から困難を乗り越えていけるか具体的に教えてほしい。

6. プログラム全体や総合討論についてのご感想

<コメントのまとめ>

- 男女共同参画への初参加を通じて、現状への理解が深まった。
- 総合討論があるのは良かった。
- 仕事しながらの子育ては大変であり、職場や上司の理解が重要だと思う。
- 会場が満席で立見となりメモを取るのに支障が出たため、椅子だけでも追加配置してほしい。

7. 今後、男女共同参画推進委員会企画シンポジウムで企画してほしい内容

<コメントのまとめ>

- ダイバーシティが低い日本と比べ、海外ではどのような工夫がなされ、どうしたら日本も良くなるのか議論したい。

8. 今後のダイバーシティ関連活動に期待することなど

<コメントのまとめ>

- 生理学会員の本当の悩みを解決できるような話題提供と活動を期待。

自由記述に関しては、要約のうえ掲載しております。

貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。

今後も会員の皆様のニーズにお答えできる活動を進めてまいります。